

自然と文化科 シニア自然観察会 活動記録

日時	令和元年5月9日(木) 13:30~15:10 うす曇り	担当者
場所	大阪市立長居植物園(大阪市東住吉区长居公園1-23)	文・写真:長野 馨
備考	大阪市立中央区東老人福祉センター 21名 センター職員 2名 大阪ガス福祉財団職員 2名 自然と文化科 スタッフ:9名	

うす曇りで観察会には絶好の天気の下、初夏の樹木の観察会を、当初の参加予定人数が30名から25名となったが6班で実施した。下見の時の状況より満開を期待したトゲナシハリエンジュが見頃を過ぎており、開花を予想していたタイサンボク、ユリノキはまだつぼみであり樹木選定の難しさを知った。参加者はカラタネオガタマの花などの香り、カミヤツデの手触り、サイカチのトゲ、ルーペでハルニレの虫こぶ内のアブラムシ観察など日常体験出来ないことに興味を持っていた。ただ、今盛りのバラ園、シャクヤク園の素通りに後ろ髪を引かれていたようであった。



若葉が真紅なレットロビン



良い香りのする白い花が咲いているダイダイ



開花間近のタイサンボク



鋭いトゲのあるサイカチ



ライラックと台木のイボタノキ



幹から直接、実のママが付いたイナゴマメ(蝗豆)



スモモとモモの違いは?



葉に虫こぶが一杯付いているハルニレ



最後に「一ロメモ」と引換えにお土産の「モックン」を渡し予定通りに観察会を無事終了した



自然と文化科のスタッフ・リーダー(9名)と大阪ガス福祉財団職員(2名)